

NPO法人 はたご

# 今庄旅籠塾



地元住民を中心に2009年に設立されたNPO法人「今庄旅籠(はたご)塾」は、当時、解体がとりざたされていた江戸後期の旧旅籠「若狭屋」(2011年7月25日、登録有形文化財に登録)や昭和初期の古民家を改修し、地域の交流拠点やカフェを開設。音楽会などを定期的に企画しています。

今年5月には、地域の個性を生かした活性化や景観づくりを進める全国の団体を対象にした「第3回美(うま)し国づくり大賞」に選ばれました。

今回は、そんな「今庄旅籠塾」の高嶋秀夫理事長にインタビューしました。



高嶋理事長

## 伝統的建造物保存と 街道復活をめざして

今庄旅籠塾は9年前の3月に有志5人で始めました。仲間は建築関係、教育関係、以前より今庄の歴史や文化に関心を寄せ、風景、鉄道、催し物などを記録に残していた人たちです。

十数年前から空き家が増え、解体も進み空き地が目立ち、このまま何もしないでいると、今庄の宿場の風景が無くなるのではないかとという危機感があつたのです。また、宿場町をテーマとした「街道浪漫 今庄宿」というイベントが毎年ありますが、まるでテント村のようで、違和感がありました。なんとか空き家、空き地を活用し宿場町の雰囲気醸し出せないものかと思っていたのです。

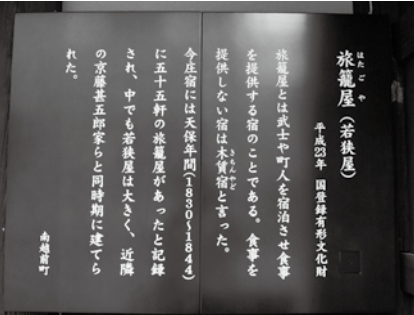
塾の発足当時は活動の拠点がなく昭和初期の貴重な鉄筋コンクリート造の「昭和会館」で、毎月2回の会



若狭屋

## 若者たちも故郷への 愛着が深まる

活動を始めるに興味を持った人たちが集まり会員も増え今庄のみならず、近隣の市、町からも参加者が



## 今庄は歴史の宝庫 昔から交通の要衝

PTAの役員会で親子で「今庄探検」をしようと提案しましたが、実現しませんでした。今では地域学習の中で大きな役割となっていることはうれしい限りです。

訪れ、展示会、歴史講座、小さなイベントなどを通して地域の皆さんの意識の変化もみられるようになってきましたね。

過疎は人災だと思っています。子育ての中で故郷への愛着心が親子の中で共有できず、むしろマイナス思考の環境評価を押し付けるような傾向にあるような気がします。これって何か変ですよね。

わたしは二十数年前より「宿場町今庄」に興味を持ち北国街道沿いにある民家で「今庄に残したい建物50軒」をスケッチしパネルにしました。

これが後の知事との座布団集いで評価を得、県の伝統的民家保存地区の指定を戴きました。パネル作成当時は熊川宿の重要な建造物群保存地区の認定に向けて活発な活動のさなかでした。当時の今庄はスキー場開発で、余裕がなかったのでしょうか。またわたしの子供が小学生のころ

今庄は歴史の宝庫です。わたしも木の芽峠の茶屋復元の仕事を役場にやらせていただきましたが、地元の人気が付いていなくて他所の人から「良いところいっぱいあるね」と言われました。

今庄は昔から交通の要所で、歴史の節目には必ず何か大きなものを残しています。そこで色々な文化の交流が有り、今庄の歴史遺産の幅を広げたのではないのでしょうか。それを発掘するのが魅力じゃないかと思えます。そこに住んでいる人がどう捉えてくれるかというところは難しいですけどね。

源平合戦の燧ヶ城跡に関しては、水を堰き止め、この周辺が湖になったという話があります。松尾芭蕉の「奥の細道」のルートとして紹介する中で出てきています。織田軍による朝倉討伐や豊臣秀吉の柴田勝家討伐、その前の二向一揆、江戸時代の水戸天狗党事件、近代では北陸トンネル

## 江戸時代の建造物も多い

今庄は1818年に江戸時代最後の大火があり約3000戸のうちほとんどが焼け落ちました。壊滅状態なのでそれ以前の資料はほとんど出てきません。京藤甚五郎家、若狭屋、大黒屋などの代表的な建物もそれ以後のもので、わたしたちの拠点の若狭屋は1857年に増築された記述があります。

そのほかに酒蔵4軒などがその面影を留めています。江戸期の建物の特徴の一つは正面が少し前に傾いています。お客さんをお迎えするのに「いらっしやいませ」みたいな感じですよ。実は当時の戸締りに擦り上げ戸をいれていました。開閉の際、垂直だと落ちてしまいますが、少し斜めにする事で止まりやすくなるのです。京藤甚五郎家にはそのまま残っています。



木ノ芽

## 補助金を当てにせず 学生たちの 協働活動が多い

補助金は当てにしないという思いは最初から今も変わっていません。



活動内容が充実すればそのうち補助金がついてくるようになることを知りました。

県からも町からも「こういう事業があるからそれを活用できる方法がないか」とのことで、古民家を改修しました。カフェに改修した古民家はわたしの同級生の家だったんですが、彼から「壊す」という話を聞いたときに「壊すなら頂戴」と交渉し、好きに使って良いとの事で改修しました。

最初の頃は仲間が出資していましたが、わたしたちの会費は高いです。普通のNPOの会費は年間数千円程度ですが、旅籠塾は年間2万4千円で入会金が1万円、賛助会員でさえ年間1万2千円なので大変です。それで足りないから会員から追加で事業費を集めてやれるところから始めました。

旅籠塾では、前に述べたように学生たちとの協働活動も一つの特徴です。教育支援の活動として、古民家を改修し利用する点に着目し、高校生が夏休みに実践実習として、掃除から調査、コンペまでやります。工業高校の生徒なので建築の勉強になり、コンペした作品を表彰した上で実際に改修にかかりました。彼らは楽しみなが参加しています。今年もやるのですが8年目です。

7つの学校が参加していますが、7年間続けている人もいます。当時3年生の男子で卒業して2年間建築

の専門学校に行き就職してから4年間参加しています。その人は京都の古民家を改修する建築会社に就職し、今では母校の敦賀工業高校の生徒に教えています。彼は当時のNHKのラジオ「ひるどき日本列島」にこの場から生出演しました。

最初は敦賀工業高校と武生工業高校の建築科でした。その後、科学技術高校のデザイン科、ここにあるタペストリーとか暖簾は彼女たちの作品です。その他に福井高専や福井工業大学、東海大学も時々来ますね。今庄の小中学校はもちろんですけど実業系の高校が多いです。

古民家を壊すと聞いた場合は壊さないでほしいとお願ひしますが、壊す場合は模型にして残すようにし



山田家床工事(2015年8月)

生活の利便優先という考えも理解できませんが、それだけでは歴史も自然も残せない。住民同士の理解と協力のあり方はなかなか難しいですね。歴史を残すのは建物だけではなく、今庄で「明治殿」や「昭和会館」を寄付してくれた田中和吉翁のことも伝えてほしいと言われました。いろんな方から見識ある言葉を教えられることは嬉しいですよ。

## 「駅弁の大黒屋」と、 「町なかの八百屋」を 復活させたい

今後の目標は「大黒屋」の復元復活です。大学の先生達と調査をしたのですが、ひよっとしたら今庄で一番古い建物ではないかということでした。今は瓦葺になっていますが、昔は京藤甚五郎家と同じように「屋根うだつ」がついていた形跡が有るのです。

大黒屋は「今庄の駅弁」の発祥地です。持ち主のお孫さんは加賀の大聖寺で今も駅弁を続けていますが建物借用の話ができました。建物保存と合わせて今庄駅弁も復活させたいです。重伝建の認定を受けると構造補強などの資金調達も可能になるので期待しています。

もう一つ、町の中から無くなる「八百屋」を復活させようと旅籠塾で取

ています。ここに展示してある「若狭屋」は高校生が作りました。他にも「鶴屋」と言っていますが、作家の「山本周五郎」や関取の「名寄岩」や「清水山」も宿泊しています。

の工事となり、わたしたちから離れてしまいい残念な気持ちもあります。わたしたちは点在しているものをネットワーク化したもので相乗効果を狙っていきたく考えています。

## 地元の理解や協力が増え 「重要伝統的建造物群」 指定の動きも

### 指定の動きも

わたしたち、最初は変わり者と色メガネで見られ、こんな所で夜遅くまで電気をつけて何をやっているのか。という人が多かったです。4年前から行政主導の「今庄宿プロジェクト」が始まっていますが、その事業の発端は旅籠塾の活動で知事と座布団集会を行った後でしたので、その補助金が旅籠塾に入ったという誤解を受けたこともありました。しかし、わたしたちは補助金に関係なく空き家を改修したり、生徒たちを動かしたり、補助金を貰わなくてもやっていたことと続けてきました。現在工事をしている齊藤三郎家は旅籠塾が4年間かけて持ち主に保存を説得した建物ですが、今は「今庄宿プロジェクト」

の「重要伝統的建造物群」指定は小浜の三丁町と熊川宿の2ヶ所だけです。嶺北にはないので、知事は今庄・三国、大野を候補に上げています。ですが、文化庁では今庄の評価が高いと聞いています。重伝建の申請は早くして2年間で調査を終え、3年目に資料を作成して申請の予定だそうです。

課題は多いですが、地域の人から自分の家の正面だけでも何とかデザインが直せないかと相談を受けるなど意識が変わってきましたね。また、小中学生が先生たちと一緒に楽しみながら参加する、これらは嬉しい事です。

活動をしていての苦労は住民や行政に対しての気遣いです。最近、こんなこともありました。3軒の古い建物の真ん中ですが、誰も住んでいないけど持ち主は壊したくない、でも両隣の人は屋根雪を下ろすのに壊してほしいと望んでいたのです。それをわたしたちが持ち主から相談を受けて見に行ったら、近所の方に、余計なことをすると言われてしまいました。

り組んでいます。3軒あった八百屋の2軒はすでに無く、1軒もあと3年で無くなるかと聞いています。そうすれば高齢者が買い物難民の状態になります。野菜販売だけでなくお年寄りの憩いの場所になるような場所にしたと考えています。「鶴屋」も重伝建になったら復元して「今庄宿場資料館」にしたいと息子さんに依頼しています。

## 派手な観光地より、 穏やかな風景の町にしたい

行政はよく住民協働と言っていますが形式優先ではないかと感じます。代表だけを入れて組織づくりをします。二見、住民参加に見えますが、その方々は自分たちの団体の活動に忙しくて新たな組織に絶えず関わることが難しいですね。

NPOや専門的な団体は、特定のことに限っては強くていつでも動けますが、それを都合よく利用されて肝心な時には排除される傾向があります。そうなるかと若い人たちが奮い立たせる材料が無くなるのではないかと心配です。頭数だけ揃えての官民協働とか、それで住民が合意をしたとするのは変です。

もう一つ、行政の慣例かも知れませんが、本来は一つの事業を行う場合、



若狭屋でてめくい販売(2014年9月)

その担当者は例えば5年間の事業であったら5年間変わってはいけないと思うのですが、それが毎年変わっていたりする。それでは「からスタ」トするのと一緒ですよ。熊川宿の場合は、教育委員会に配属されてずっと重伝建を担当していました。その後学芸員になり今は若狭郷土資料館に勤務されていますが、今庄の歴史と建造物保存についてご指導いただいています。この町にも学芸員さんが採用されていますので期待しています。

大型バスで観光客が押し寄せ、派手な格好の人が歩いている町は想像していません。今庄に住む人たちが、のんびりと、むしろ赤い半纏と赤いチヤンヤンコを着たおじいちゃんおばあちゃんが手をつないで歩いている町を想像しています。なんか今庄って楽しそうだね、行ってみると面白そうだねという感覚で良いと思うのです。

そして、若者とお年寄りの世代を超えた交流の場を目指しています。

## 今年5月に「美(うまし) 国づくり大賞」を受賞

今年5月には、地域の個性を生かした活性化や景観づくりを進める全国の団体を対象にした「第3回美し国づくり大賞」に選ばれました。この賞は、「NPO法人美し国づくり協会」主催で、同協会は土木、建築、都市計画、造園、環境といった幅広い分野の専門家が会員で、福井県立大の進士五十八学長が理事長を務めています。6月28・29日に東京での表彰式に仲間7人が行ってきました。その後、町長にも報告し祝いの言葉と激励もいただきました。これからの活動の弾みにもなると皆で喜んでいました。

(編集部)野尻、伊藤